

「全鍍連」 2022年 8月号 理事長のよこがお

京都府鍍金工業組合 北村 隆幸 (メテック株) 代表取締役)

「歴史に学ぶ」



暑中お見舞い申し上げます。現在、起きているロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続いており、ロシアによる残虐な行為が非難されているが、日本ではそのような事件は無かったのかと調べていると比叡山延暦寺焼き討ち事件がありました。比叡山延暦寺は最澄の開創以来、天台法華の教えのほか、密教、禅（止観）、念仏も行なわれ仏教の総合大学の様相を呈し、古都京都の文化財の一部として、ユネスコ世界文化遺産にも登録されていますが、昔は血なまぐさい歴史があったのです。1571年織田信長により、延暦寺の建物という建物を取り囲み、無抵抗の僧侶や女性や子供まで数千人を皆殺しにしたという事です。当時のお寺は遣唐使に代表される僧侶が持ち帰った知識や技術が集まったお寺は産業拠点となり、お金が集まり経済力を持っていました。お金が集まるという事は節制や修行を主とする僧侶からすると自堕落な生活になりがちです。比叡山延暦寺の僧侶は宗教者としての責務を果たさず、放蕩三昧の生活を送り、やがて、信長に敵対する浅井・朝倉に軍事基地を提供することになります。信長は比叡山延暦寺の僧侶に対し、放蕩三昧で武士の戦争に関与してくる存在と見なしたのです。いつの時代も戦争の犠牲になるのは、多くの罪のない人々です。ロシアにより、始まった戦争がいつまで続くかはわかりませんが、一刻も早く無意味な戦争が終わることを心より祈っております。

現在、比叡山延暦寺の国宝根本中堂大改修が2016年から、10年をかけ行われています。60年ぶりの大改修とのことである。60年といえば、京都府鍍金工業組合は今年、設立60周年を迎えます。現在の状況では記念行事等はできないかもしれないので、この機会に記念誌を作成することを決めました。作成する目的は過去を振り返り、懐かしむだけでなく、10年後、20年後に向けて、役立てて欲しいと考えています。この2年間、新型コロナによる影響や後継者問題等により、組合員数も減少し、従来のような取り組みができにくくなっておりませんが、後継者問題と事業継続は永遠のテーマであり、企業が存続するためには避けては通れません。山本周五郎氏の言葉『人間の真価は死んだ時、何を為したかではなく、何を為そうとしたかである。』があります。私なりの解釈で恐縮ですが、何をしたかという事で評価をすると時代背景や病気や何かの障害でできないこともあるが、目的の実現に向けて、人が努力したことは後日、別の人間により、成し遂げられることもあります。従って、その人が何を考え、努力してきたかを知ることが重要であるのです。このような考えのもと、「京都めっきヒストリア」という企画で、京都府鍍金工業組合に関係のあった方のインタビューを試み、文字にしています。今年の12月には完成予定ですので、お読みになる機会があれば、参考にいただければ幸いです。